

協会だより

第36号

平成30年2月1日発行

福岡県立学校事務職員協会

会長の年頭挨拶

「一期一会」

平成30年の年頭にあたり、御挨拶を申し上げます。

旧年中の皆様方の御協力に感謝申し上げますとともに、本年も引き続きよろしく願いいたします。

昨年4月に会長に就任し、10ヶ月が経過しました。振り返ってみますと、年度当初に三役及び各地区会長4名のうち3名が交替するという、本協会にとっては変革の年となりました。また、選挙規程を見直し、三役の立候補者がそれぞれ1名である場合は信任投票は行わないという事務の簡素化も行いました。わずかな事かも知れませんが、少しでも事務の軽減に繋がれば幸いと思っております。

昨年7月に発生した九州北部豪雨は未曾有の大災害をもたらしました。一昨年の熊本地方の大地震に続き、災害時における緊急対応や学校が避難所になった場合どうすべきか考えさせられる1年でもありました。

さて、平成29年11月17日(金)に「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催された「全国協会理事会」の報告をいたします。

理事会と同日程、会場で全国協会主催で「中堅事務職員研修会」も開催されました。参加された4名の方の報告がこの協会だよりに掲載されていますので、是非読んでください。

1. 全国大会

第70回石川大会は平成29年7月26日(水)～28日(金)「教育の改革と発展をめざして」～学校経営事務の充実～という統一テーマのもとに金沢市にて開催された。

総参加者数841名(うち福岡県55名、全国で3番目に多い。)

第71回山口大会は平成30年7月25日(水)～27日(金)山口市にて開催される。

2. 70周年記念誌発行

記念事業として、「全国協会70年のあゆみ」を発行。

全国協会ホームページより閲覧できる。(パスワード kaiin2014)

3. 全国協会要覧

現在、協会加入校1校につき1冊配付しているが、平成30年度版より電子データで配信する。

全国協会ホームページにも掲載。

4. 全国大会申込み方法の変更

山口大会からインターネットで直接取扱旅行業者へ申し込む方法に変更する予定である。申し込み状況を旅行業者が協会長へ報告する。

5. 文部科学省国立教育政策研究所からの調査

文部科学省科学研究費助成事業として、「都道府県立学校事務職員の職務・人事・人材育成に関する調査」を実施する予定である。なお、義務教育諸学校については、平成27年に調査済みである。調査結果は、今後の政策形成において活用される。

6. 全国協会会長から

来年度から2県が休会する予定である。これで全国で14の都道府県が休会または活動休止となる予定である。採用形態(行政一本化)の影響により、学校事務職員として協会の活動を続けていくことが難しくなっている。

以上が理事会の報告です。

来年度の九州大会は佐賀県鳥栖市で、全国大会は山口県山口市で開催されます。共に隣県での開催となります。地域によっては日帰りも可能なので、旅費を心配することなく参加できます。研究発表を聞くのはもちろんのこと、終わった後の情報交換会で他県の方と話をするのはとても勉強になり、世界が広がります。単に仕事に必要な知識を得るだけでなく、人とのつながりができます。思いがけない出会いが待っているかも知れません。「一期一会」を大切にしてください。

本県の来年度の研究発表会並びに総会では、福岡地区の災害対応をテーマにした研究発表や実際に朝倉地方の災害復旧に携わった方々の話を聞き、皆さんに防災については是非考えていただきたいと思っております。多数の参加をお待ちしております。

最後になりますが、今から入試、学校行事等多忙な時期に入りますので、時にはリフレッシュすることも忘れずに、くれぐれも健康に御留意ください。

本年が皆様にとって希望に満ちた明るい年でありますことを御祈念申し上げますとともに、本協会への変わらぬ御支援と御協力をお願いいたします。

(会長 武田 美余)

各 地 区 活 動 報 告

●北九州地区 (会長 生田 千博)

北九州地区では、業務の改善について研究を行い、また自発的研修を行うことにより、学校間の連携と事務職員の資質、職務遂行能力の向上を図ることを目的として活動しています。

本年度の事業は、「実務研修会」・「地区別研修会」・「新規採用事務職員等研修会」を実施しています。これら協会の活動に際しましては、今後も、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

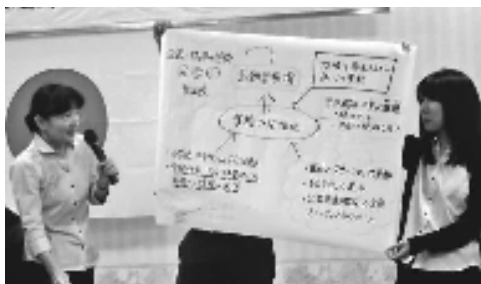
【主な研修会の概要】

「実務研修会」は、①コマ目は、財務課予算係 山田氏から「旅費事務について」、②コマ目は、班別討議として「就学支援金・奨学給付金について」、両研修とも、事前に北九州地区の学校から出た質疑への応答を、財務課から頂き、日頃の細かな疑問点を全員で周知・解決することを目的に行われました。日常業務を遂行する上で大変参考になる実務的な内容で、有意義な研修会となりました。

県教育委員会との共催による「地区別研修会」では、講演の前に、人権・同和教育課から「部落差別の解消の推進に関する法律について」説明がありました。講演は、「目からウロコのまちづくり」～視点を変えたユニークな発想で地域を元気に～との演題で、株式会社 まちづくり研究所 代表取締役 今泉 重敏 様からして頂きました。地域(学校)の課題を病気に例え、どうしたら活性化(治癒)していくのか、面白く効果的なさまざまなアイデアで活気を取り戻す斬新さに、何度も目からウロコが落ちました。後半は、主事から事務長まで、階層を問わず6つの班を構成し、自校の活性化について、個々で考え発表をしました。世代を超えた交流と学校間の連携及び事務職員としての資質向上を図ることができたとともに、さまざまな意見が飛び交い、今後学校への還元ができれば、本研修会が生きてくると思います。



「新規採用事務職員等研修会」の前期(1日)は、午前「事務職員の基本を学ぶ」と題し、事務職員の基本である待遇や電話応対、倫理観について理事から講義があり、その後、新採職員の5分スピーチを行いました。午後から「新規採用職員に伝えたいこと」と題しての事務長講話後、「実務の基本を学ぶ」と題し収入・支出・旅費の概略を理事が講義しました。後期は、自分が気になる新聞の切り抜きの紹介及びアクティブラーニングを活用し、新採職員各々が行っている日々の業務から1つ抜粋し、業務の基本的な流れを一人15分程で発表、その後課題や疑問点を新採同士や理事と一緒に考え学びました。これからの長い事務職員生活の中で、支えとなる同期と親睦を深め合える本研修会は、とても有意義であり、今後も継続していきます。



【各研究委員会の活動状況】

「事務研究委員会」では、事務職員に関連する様々な案件等を各自が持ち寄り、それを研究討議しています。次回の発表まで時間が十分にありますが、とりあえず1つのテーマを決め、3年ぐらいで研究がまとまるよう取り組んでいきたいと思ひます。

「パソコン研究委員会」は、今年度の研修会を見送っています。今後、改めて会員のニーズを聴取し、協会活性化の一助となる新しい試みに向けて、取り組んでいきたいと思ひます。

●福岡地区(会長 三宅 秀幸)

福岡地区では、研修主任の設置等により充実した組織とし、会員相互の連絡・調整をとりながら、会員の資質の向上を図り学校教育の発展に寄与することを目的として、研究と研修を行っています。特に、財務会計の適正な処理を重視して、学校間の連携、職員間の連携を大切にしながら点検や情報交換等の取組を実施しました。また、事務処理能力の向上と学校運営参画意識の向上を目指して、職員が一丸となって様々な業務を行うため、次の活動を行いました。

【実務研修会】

平成29年9月28日(木) 修猷館高校 13:30～

1. 講義「給与事務について」 講師：教職員課給与総務係 事務主査 長岡 耕平氏
 2. 講義「旅費事務等について」 講師：財務課予算係 主任主事 山田 哲也氏
- 過去の注意・指導等の事跡を例にして、誤りやすい内容について詳しく解説・指導していただきました。

【監査対策点検】

同一地区内で点検者を選考して派遣依頼を行い、9月～12月に定期監査現地校(14校)に出向き点検を実施しました。

【初任者研修会】

採用1～3年目を対象とした研修会を開催し、市町村からの転入職員を含む31名が参加して実務研修等を実施しました。

〈第1回〉平成29年8月2日(水) 博多青松高校 13:00～

- ① 研修計画
- ② グループ討議「日常業務の問題点」
- ③ 先輩職員(事務次長) 講話「成長するチャンスを見つけよう！」
- ④ 先輩職員(事務次長) 講義「学校事務職員の仕事1」

〈第2回〉平成29年10月25日(水) 修猷館高校 13:15～

- ① 採用1年目職員による発表「学校PR」(11名)
- ② グループ討議「学校事務職員と給料」
- ③ 先輩職員(事務次長) 講義「学校事務職員の仕事2」

〈第3回〉平成30年1月25日(木) 修猷館高校 12:45～

- ① 先輩職員(事務次長) 講話「労働法規について」
- ② 実務研究発表(2年目職員による発表7名)
- ③ 実務自主研修・年間のまとめ(研修主任)
- ④ 講評(副会長)

【3ブロック別研修会】

定期監査等の状況について、指導のポイントやその対応など内容の確認・検討を行い、疑問点についての意見交換・解決策の研究を通して情報の共有や事務スキルの向上を目的にブロック別研修会を実施しました。

- ① 日時 平成29年12月22日(金) 東・西ブロック(合同実施) 場所 福岡魁誠高校
- ② 日時 平成30年1月24日(水) 南ブロック 場所 福岡視覚特支

昨年度に引き続き実施しました。参加者はお互いに顔見知りとなり、活発な情報・意見の交換がなされました。

【事務研究委員会】

平成24年度から事務室が使いやすい危機管理マニュアルの作成に向けての研究を行い、平成26年度の九州大会(ホルトホール大分)で発表しています。

現在は、発表以降の状況の変化(環境整備班の完全導入等)に対応できるよう研究を進めているところです。

【パソコン研修会】

新しくなったMicrosoft Office 2013への対応と有効活用を図るための情報を提供し、研修を行ってみたいと思っております。

【地区別研修会】

平成29年9月15日(金) 福岡リーセントホテル 13:00～17:00 参加者48名

1. 講 話 1

「部落差別の解消の推進に関する法律について」

講師：福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育課 指導班 指導主事 祖田 伸二氏

(内容)平成28年12月に施行された部落差別の解消の推進に関する法律の内容について、プロジェクトを使用して解説がありました。

2. 講 話 2

「疲れた体をほぐそう～職場でできるストレッチ～」

講師：公立学校共済組合「職場の健康づくり支援事業」健康運動指導士 中江 彩 氏

(内容)「職場でできるストレッチ」という内容で実技を取り入れながらご講話いただきました。

3. 講 話 3

「ワークライフバランスを考えよう」

講師：特定社会保険労務士 守田 優美 氏

(内容)我が国の社会は、仕事と生活が両立しにくい現実に直面していることから、社会全体の問題として双方の調和の実現を希求していく必要がある、というワークライフバランス憲章の概要を説明されました。

4. 班別討議及び発表

「良好な職場づくり～ワークライフバランスを考えて勤務時間を見直そう～」

(内容)良好な職場づくりに向けた課題と対策について、7班に分かれて班別討議を行いました。4つの項目で、各学校の現状と課題(問題点)及びその対策を班内で意見をまとめ、討議結果を模造紙に記入して発表を行いました。

「他校の現状を聞くことができ、参考になった」、「実践したくなる意見を聞いた」等の感想が寄せられ、有意義な班別討議となりました。



●筑後地区(会長 田中 利幸)

筑後地区では、会員相互の連絡・調整と会員の資質向上を図るために、次の研修会・研究活動を行いました。また、実務研修の一環として筑後地区県立学校事務長会との共催で、支部単位で監査現地校事前点検会議を実施しました。さらに、筑後地区5支部において支部研修会を行い、その後懇親会を開催し支部内会員の交流を図りました。

【実務研修会】

平成29年7月19日(水) 福岡県立八女高等学校

1. 講義「給与事務について」

講師：福岡県教育庁教育企画部教職員課給与総務係 主任主事 梅原 遼平 氏

2. 講義「服務事務について」

講師：福岡県教育庁総務部総務課人事文書班 主任主事 野口 年隆 氏

【地区別研修会】

平成29年9月22日(金) 福岡県教育庁北筑後教育事務所

1. 講習

講師：色と香り Ohimegulife 代表 田中 智子 氏

内容：「カラーセラピーでリラックス」

2. 講話「部落差別の解消の推進に関する法律について」

講師：福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育課 指導主事 上野 裕一郎 氏

3. 講演「個人情報保護制度について(入門編)」

講師：福岡県県民情報広報課 主任主事 福本 翔 氏

【新規採用事務職員等研修会】

第1回 平成29年7月25日(火) 福岡県立大川樟風高等学校

内容：参事講話、パソコン演習、接遇（マナー講座）

第2回 平成29年11月10日(金) 福岡県教育庁南筑後教育事務所

内容：事例協議、職場訪問「南筑後教育事務所」、先輩からのアドバイス

【事務研究委員会】

平成31年度の九州大会での発表に向けて、「学校事務職員の現状と課題、今後の改善に向けて」をテーマに研究を行っています。

今年度中に学校事務職員の現状と課題に関するアンケート調査を実施し、得られた調査内容を分析し研究を進めていきます。

【パソコン研究委員会】

昨年に引き続き新規採用者の研修会で、MS WordとExcelの講義を行いました。昨年度の反省を活かし、PCを操作しながらの演習を増やした結果、新規採用職員の反応も良く、実際の業務でも学んだことを活かしてくれているようです。

お願い：部共有のテンプレート倉庫のフォルダに様々な場面で役立つExcelファイルを置いておりますので遠慮なく使ってください。ただし、所属にコピーしてから入力してください。

●筑豊地区（会長 藤田 益彦）

筑豊地区は16校の学校で構成されており、学校教育活動の充実・発展に寄与することを目的として、会員の資質向上を図るために研修並びに研究を行っています。

**【新規採用職員等研修会】**

(1) 第1回 平成29年8月2日(水) 立岩公民館にて開催

- ① 新規採用職員スピーチ「これだけは伝えたいこと」10人
- ② グループ討議「新規採用職員の質問に答えよう！」
- ③ (飯塚市防災センターにて) 防災体験学習

(2) 第2回 平成29年11月2日(木) たがわ情報センターにて開催

- ① パソコン研修会「エクセル応用編」
講師：(株)クリエイティブジャパン 岡本 小百合 氏
- ② 意見交換会

(3) 第3回 平成30年1月19日(金) イイツカコミュニティセンターにて開催

- ① 職場の健康づくり「コミュニケーションの重要性」良好なコミュニケーションとは何か
講師：(公財)福岡労働衛生研究所 臨床心理士 川上 夏季 氏
- ② 事務長講話「嘉穂総合高等学校活性化に向けた取組」
講師：嘉穂総合高等学校 事務長 白濱 克彦 氏

【会計事務相互点検】

9月～11月に事務主査・事務次長会が中心となり、今年度の監査実施校(5校)に赴き監査期間内の諸帳簿の点検・確認を行いました。

【会計実務研修会】

平成 29 年 7 月 14 日 (金) 福岡県立嘉穂高等学校

- ① 講義：「給与事務について」 講師：教職員課給与総務係 主事 杉本 伽那 氏
② 講義：「旅費事務について」 講師：財務課予算係 主任主事 山田 哲也 氏

【地区別研修会】

平成 29 年 8 月 25 日 (金) パドドゥ・ル・コトブキ

- (1) 講演：「障がい者差別解消法と学校における合理的配慮」

講師：福岡県立直方特別支援学校 校長 高倉 一斉 氏

学校における合理的配慮について、インクルーシブ教育システムの構築が課題である。障がいの有無にかかわらず、同じ場で多様な個人が能力を発揮しつつ、お互い教育を正しく理解し、共に助け合いながら学習することが求められる。合理的配慮とは、形式的な(手段の)平等ではなく、保障しなければならないのは機会の平等であると述べられた。

- (2) 研究協議「事務職員に求められるスキル～折衝力～」

発表者：田川科学技術高等学校 主事 太田 詩織
嘉穂高等学校 事務主査 矢野 大輔

2 人の発表を受け、各階層を 4 班に振り分けて協議を行った。発表者の話を元に話題が広がり、業務に活かせるヒントや、即実践できるような意見など活発な協議となった。

【定時制課程事務職員研修会】

今年度も年間 4 回開催し、筑豊地区定時制課程 4 校の事務職員が一同に集まり、定時制事務のうち主に夜間給食や備品について討議、意見交換を行いました。

各 研 究 部 報 告**●事務改善委員会 (委員長 木下 賢司)****1. 平成 29 年度の活動**

前々年度から事務改善委員会は、主に次のような活動を継続して行っています。

本委員会の方向性として求められている調査、研究、文書のうち、文書に焦点を当て活動を進めており、その内容は、『業務に関連する通知文書の収集、PDF 化及び保管を行い、会員向けのデジタルアーカイブズ(古文書館)を構築し、同時に保管する』というものです。

県からの通知文書を集約し、会員がいつでも閲覧できるようになれば、我々が日々の業務を行う上で効率化にもつながっていくと考えます。

対象となる文書ですが、すべての文書となると、収集分野、範囲、作業方法などで業務量が多大であることから、「教育関係者必携」、「県立学校事務提要」、「教育関係通達集」「校務運営に関する集録(教頭協会編集)」などに記載されている通知文書は対象外とし、これに記載されていないものを対象としています。

まず手始めとして、「県立学校事務提要」に根拠通知として本文右欄外に掲載されている県通知文書の中から、文書番号、タイトル等のみで文書の中身が掲載されていないものを紙ベースで収集し、これらをすべて電子データ化を図っています。

現在、事務提要に記載の文書タイトルを集約した一覧表を各編ごとに作成し、収入編及び支出編について、データ(紙、電子)の有無を確認中ですが、見つからない文書があるため、完成に至っておりません。

しかしながらこれが完成すると、県立学校事務提要を補完できるものとして、業務の一助となると確

信しておりますので、是非本委員会へのご意見ご要望等を各地区の委員へお寄せください。また、我々の手元にない通知文書が多々ありますので、文書を提供等していただけると助かります。

今後とも当委員会へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

2. 活動状況

(1) 第1回 平成29年8月30日(水) 場所：光陵高等学校

今年度活動の検討、今後の取り組み

通知文書の収集分野、範囲… 県立学校事務提要との連携

(2) 分野ごとに担当者を割り当て、収入編・支出編に係る文書の収集及び電子データ化を行う。

(3) 第2回 平成30年3月上旬予定 場所：福岡リーセントホテル

データ作成の進捗状況について

検討及び資料収集の整理、各学校への照会検討

●事務提要委員会（委員長 赤尾 恵美）

事務提要委員会は、今年度も提要4編の追録原稿作成、及び就学支援金等マニュアルの更新を行っております。なお発行は、30年度当初を予定しております。

6月8日、第1回県委員会を福岡リーセントホテルで行い、提要4編の地区別担当箇所、及び就学支援金等マニュアル追録の方針決定、役割分担を決め、活動を始めました。

「提要4編」については、7月・8月、各地区別に精力的に原稿作りに取り組みました。作業は各地区順調に進み、8月18日、博多青松高校に4地区が原稿を持ち寄り、財務課予算係からの要望も盛り込み、集約作業を行いました。9月15日、八幡南高校にて追録原稿の再点検を行い、財務課予算係へ追録原稿のチェックを依頼し、財務課予算係から、教育庁各主管課へチェック依頼を行っていただき、関係各課のご理解、ご協力のもと、12月中にチェック済み追録原稿が戻ってきましたので、1月11日、香椎高校にて、追録原稿再チェック作業を行うことができました。その後、業者に追録原稿を送り、校正作業を経て本追録の発行となります。

「就学支援金等マニュアル」については、提要追録原稿同様、7月・8月に各担当ごとに原稿作りに取り組み、8月10日、小倉高校でマニュアル作成の作業状況を確認し、8月18日、博多青松高校マニュアルの編成作業を行い、9月6日、財務課学校予算係へ原稿点検を依頼しました。「事務提要ライブラリー版」については、業者からの追録が出来次第、更新出来るよう頑張っていきます。「文書分類表」の更新については、3月初旬には、ライブラリーに登載し各学校に配布できるようにいたします。

また、事務提要委員会では、会員の皆様のご意見・ご要望等を寄せていただくため、「め安箱」を協会のスマートページに設置しております。（スマートページ＞G教育庁のフォルダにあります。）皆様、大いにご活用ください。さらに、委員は多忙な本務の合間を縫って、多くは自分の時間を割いて活動しており各地区の地区委員の皆様にも鋭意ご協力をいただいております。加えて、事務提要委員会の編集等の活動に際しましてご協力いただきました関係機関や事務提要委員の皆様には大変感謝しております。

最後に、会員の皆様におかれましては、今後とも事務提要委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

●情報委員会（委員長 佐伯 伸）

1. 平成29年度の活動

今年度は、研究部各委員会への支援と今後の委員会活動の方向性についての検討が中心となりました。

まず、5月の県総会でもお知らせしました研究部間の協力ですが、第1回委員会に事務提要委員会と

事務改善委員会の両委員長さんにご出席いただき、意見交換を行いました。事務提要委員会から要望がありました協会スマートページの活用促進(特に事務提要委員会のライブラリの活用)について、共用パソコンのデスクトップ向けショートカットアイコン配布や行コミメニューへの登録を提案させていただきました。また学校関連通知文のPDFアーカイブ化を進めている事務改善委員会の取組にあわせて、PDFファイルのサイズ管理と所属へのデータの配布方法について検討を行いました。研究部各委員会への協力は、今後も進めてまいります。

次に、今後の委員会活動にかかる検討ですが、主に①広報活動の在り方と②地区パソコン委員会が行うパソコン研修会の在り方について協議を行いました。

現在、事務職員協会は、協会ホームページ(外部)と協会だよりを中心に、活動の広報を行っています。平成28年度から、協会ホームページの管理を民間委託業者から情報委員会メンバーによる更新へと移行しています。残念ながら、ホームページ言語であるHTMLタグを使つての修正に時間を要し、更新が遅れており、会員の皆様には御迷惑をおかけしています。またWEBセキュリティーの知識に乏しくサイバー攻撃への対策もできていないのが現状です。一方、スマートフォンが身近な情報機器となっており、短文で画像を盛り込んだSNSを使った広報の方が、県内外の閲覧者にとってより身近なものになるのではという意見もあり、平成32年の事務職員協会九州協議会研究大会(福岡大会)の広報に向けて10名の委員を3班に分け、協会ホームページの更新作業、協会スマートページの管理と更新作業、SNS公開に向けて研究を始めています。

また、情報委員会メンバーのほとんどが、各地区パソコン委員会のメンバーも兼ねており、各地区協会を中心に行っているパソコン研修会の企画運営に携わっています。地域間の壁や格差をなくし、会員のスキルと関心に沿った全県的なパソコン研修会を提供できないか検討しています。各地区会長さん方を始めパソコン研究委員の皆さんには是非ご協力をお願いします。

余談ですが、9月に共用パソコンのMicrosoft Office 2007サポート終了に伴うOffice 2013 plusへの更新が行われました。更新に伴い「県立学校事務職員協会」ライブラリー実用ソフト集にあるエクセル計算シートの動作に不具合が生じましたが、田川科学技術高校の奥野事務長さんに修正していただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さてICT機器を活用した教育環境の整備が各校で進められています。また共用パソコンは日々、情報セキュリティーが強化されており、以前のようなお手軽な機械ではなくなりつつあります。現在、校務パソコンは企画調整課が、共用パソコンは情報政策課が所管し利用者からの質問に対応していますし、ソフトウェアの疑問は統合ヘルプデスクが、関係システムの疑問は担当各課で対応しています。活動の範囲が狭くなりつつありますが、何かお困りの場合は情報委員会までお気軽にご相談ください。

2. 活動状況

(1) 第1回 平成29年10月30日(月) 福岡リーセントホテル

- 協会ホームページの更新について
- 広報活動にかかる今後の方針について
- 各研究委員会との意見交換

(2) 第2回以降の会議は取りやめ、行コミメールとコミュニティフォルダを活用し、意見交換を行っています。

中堅事務職員研修会報告

開催日：平成 29 年 11 月 17 日 (金)

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)

小倉西高等学校 事務主査 藤林 真由美 (開会式、講演)

開会式では、全国公立学校事務職員協会会長より「全国より 65 名の事務職員が参加しています。上司と部下の指導の在り方、職場環境の様々な変化に対応したこれからのリーダーの在り方などを考え、コミュニケーションスキルを学んでそれぞれの資質の向上を図り、全国から集まった事務職員と交流し、見識を深めてください。」とのことでした。

次に、株式会社マネジメントサポートの吉野有紀氏による「学校事務における次世代リーダーの養成～人と組織を動かす論理的コミュニケーションスキル～」の講演がありました。まず、「あなたにとってのリーダー像とは」を具体的に考え検討した結果、リーダーとは専門的・人間的影響力があり、誰もが持ち合わせていたい能力ではあるが、地位や役割だから必ずしも持ち合わせている能力ではないということであらためて確認しました。

これからのリーダーを支える上司補佐の役割は、上司と部下の間に立つパイプ役として、伝達・調整・育成を担うものであるとのことです。そのため、コミュニケーションが重要となってきますが、個人間のコミュニケーションには仕事志向コミュニケーション(課題達成を目指し、情報伝達を目的とする。正確さ、わかりやすさが求められる)と情緒的コミュニケーション(人間関係の維持と強化を目的とする。思いを吐き出す、時間・空間を共有する)の 2 種類があります。どちらも重要で、コミュニケーションに障害(話し方や表現方法が悪い、固定観念や先入観がある、自分が関心あることについて説明不足になる、好き嫌いの感情が入る、外見や態度で受け取り方を変えるなど)があると、うまく伝わらなくなります。これらを踏まえ、部下のスキルやレベルを適切に把握し、それに沿った指導をしていくことが重要で、そのためにも、自分がどういうリーダーなのかを知り、理想のリーダーと比べ足りない部分を埋める必要があるということです。まずは良い人間関係を作るため、相手の話をしっかりと聴き、共感・理解を示す、相手をほめること、また、相手に依存したり、過度な期待をしないことや時には反面教師とすることなどを挙げられました。具体的に言葉で示していただき、より理解が深まりました。

福岡中央高等学校 事務次長 中松 勇二 (事例演習(前半))

午後からは、午前の講義内容(「人と組織を動かす論理的コミュニケーションスキル」)を受けて、同じく株式会社マネジメントサポート 吉野 有紀 氏による実践的な事例演習が、参加者を 12 班(1 班 5～6 名)に分けてのグループ討議形式により行われました。まずはアイスブレイクとして、「透明なコップの使い方」を各班で考えることから討議はスタートしました。これは「飲み物を飲むためのモノ」という常識的な発想以外にどのような視点があるかを考えさせる設問で、先入観を排し物事を多角的に漏れなくダブリなく検討する「MECE」という論理的方法を学ぶための導入として設定されたものでした。各班からは、「花瓶」や「重し」といった意見から「割って刃物として使用する」といった大胆な意見も出されました。活発な意見交換で各班の雰囲気が良くなったところで、さらに「学校を 2 つの切り口で分ける」という演習にとり組みました。「公立」と「私立」、「義務制」と「高等教育」、さらには「私達にとっての職場」と「生徒が学ぶところ」といったような様々な対立軸が各班より示されました。ここでは、自分 1 人だけでは思いつくことのできない発想に触れることができ、改めて物事の多面性について意識的になることの重要性に気付くことができました。

続いて、同じく論理的思考法の訓練として、ロジックツリー演習を、「ワークライフバランスのために

できること」というテーマで行いました。各班ともいろいろな県出身者で構成されているので、それぞれの職場の状況等を情報交換しながらの作業でしたが、テーマが今日的な課題だったこともあり、非常に話が弾みました。問題を解決するための様々な要素を検討し、具体的な方法に落とし込んでゆくのですが、やはりどこの職場も楽なところはなく、「休日を取得する」こと一つとっても、それぞれの事務室で色いろと工夫されていました。その中でも「休日等スケジュールの可視化(見える化)」や「コミュニケーションスキル」による職場の雰囲気作りはどこの職場でも役立つ解決の具体策として班内で意見を共有することができました。そこでは論理的な思考だけでは不十分であり、情緒的コミュニケーションスキルについても同じように磨いてゆかなければならず、それぞれが車の両輪のようなものであるとの認識で一致しました。

以上、事例演習(前半)についてまとめさせていただきましたが、このように全国の同じ事務職員の方々と意見交換できる貴重な研修会に参加する機会を与您いただき、たいへん感謝しています。この貴重な経験を今後の業務に活かしてゆきたいと思っています。

伝習館高等学校 事務次長 前田 美和(事例演習(後半))

午後からの事例演習(後半)は、コミュニケーション等について引き続き班別でのロールプレイング研修でした。私の班は、出身は北海道から鹿児島まで、年齢構成も20代から50代と幅広く、見るからに話のネタを沢山持っているような人もいれば、なかなか視線が合わない人も。普段の顔見知りの事務職員同士の研修とはちょっと違う雰囲気でしたが、研修が進むにつれて思わずみんなの笑顔がこぼれる場面もあつたり次々に話題が出てきたりと良い雰囲気になりました。今まで何度もコミュニケーションの研修は受けてきたのですが、コミュニケーションってこういうことなんだな、とあらためて実感しました。

コミュニケーションの基本スキル、「指導」の考え方、指示の出し方、ほめ方叱り方等々、毎日の職場での一場面を取り上げて、この叱り方の良いところはどこか、あと一歩どう言葉をかければ相手は注意を受け入れてくれるか、といった具体的な指導があり、研修の最後にはアンガーマネジメントについても触れられました。『アンガーマネジメントとは、「怒らないこと」ではなく、「怒りを後悔しない(管理する)」ことである。怒りは人間の自然な感情でありなくすことは不可能なので怒ってよい。怒ったことを後悔しないよう怒り方に工夫が必要であり、怒りを上手く伝えることが大事です。怒ってしまうのは「〇〇すべき」という自分の願望と現実の状況にギャップがあるからなので、いかに許容範囲を広げるかが大事になります。怒りに感情を使うことが馬鹿馬鹿しくなればしめたものです。』

自分は感情コントロールができているか?上手に怒れているか?日頃の自分の行動を顧みる良い機会となりました。今回このような研修に参加させていただき、ありがとうございました。

嘉穂総合高等学校 事務次長 中尾 良純(文部科学省講話、閉会式)

○文部科学省講話について

講師の梅崎氏は文部科学省で学校の状況改善に関する業務に従事されており、最近の学校事務職員をめぐる教育行政の動向について1時間程度の講話があった。内容の要点は以下の通り。

今後の社会はグローバル化・情報化等により変化が激しく、次世代の子供たちが生きる未来は予測が困難な状況にある。海外の研究者によると、子供たちの65%は大学卒業後、現在存在していない職業につくことになり、ICT化により今後10～20年程度で約47%の仕事が自動化されていくであろうと言われている。また、日本では少子高齢化により、2060年には生産年齢人口が半数程度に減少し、財政難等の課題が深刻化していくことが予想されている。

このような状況を踏まえ、平成28年12月の中央教育審議会の答申で、2030年頃の社会の在り方を見据えた学習指導要領改訂の方向性が示され、高等学校の学習指導要領については本年度中に改定され

る予定である。加速度を増す社会の変化に対し、受け身ではなく自ら考え行動できることが子供たちに今後求められていくため、アクティブラーニングの充実や高大接続改革、学校と地域社会との連携・協働がより一層必要とされる。併せて事務職員に求められていることは、教育内容に応じ人・物・資源を有効に活用してより良い学習支援を目指すことであり、これまでも言われてきたことだが、教材・教具、施設管理等をより一層充実させるため、予算の効率的・計画的な執行に取り組むことが必要になる。

また、学校教育法の改正により学校事務職員がより主体的・積極的に公務運営に参加することができるよう職務規定が見直されており、教育の質の向上と業務改善を図るため、学校事務職員が管理職の事務的業務のサポートに努めることで教員の業務負担軽減につながることを期待されている。

現在、教職員の長時間勤務の実態は看過されない状況にあり、チーム学校の観点によるスクールカウンセラーやキャリアアドバイザー、部活動指導員などの専門スタッフの配置、時間外の留守番電話対応や部活動の適正な運営など、様々な取り組みを用いて学校における働き方改革を進めていく必要がある。





「^し至 ^{そく}足 ^{ゆう}優 ^{ゆう}游」

「ウォーキングとの出会い」

生田 潔 (元 福岡県立筑紫丘高等学校参事兼事務長)
平成 25 年 3 月 31 日退職

今のウォーキングクラブに入って、12 年目になります。現役のところは月 1 回の定例のウォーキングに何とか参加できる程度でしたが、ここ数年はありがたいことに平日の活動にも参加でき、九州各県のウォーキングの大会にもいくつか参加できるようになりました。ウォーキングクラブにも全国組織がありましてここが財団法人ですが結構商売上手です。年 1 万円の会費を払うと「ウォーキングダイアリー」というちいさな手帳を毎年送ってきます。そこにいくつかの大会をパックにした「○○リーグ」と称する公認シリーズが用意されていて、これをクリアすることに「認定証」を差し上げますというコンセプトです。参加した大会数や参加した大会の距離の合計でも「認定証」が出ます。認定料の他、旅の費用もかかりますが、結構はまるシニア層も多いようで、「俺はもう 3 回回った」とか「あそこの大会は扱いがよかったので 5 回」といった戦果が飛び交うことも多く、ちょっとした「家元」のようです。

私がウォーキングに出会ったのは、かれこれ 20 年くらい前、何回か続いたギックリ腰の治療先の先生の腰回りの筋肉をつけるのが再発防止になるとのアドバイスからでした。当時体重も重量級で一石二鳥を狙いましたが、ギックリ腰の方は収まりまったものの、歩いた後の胃袋のケアは失敗続きでした。50 歳を過ぎて、人間ドックの先生に真顔で「痩せなさい」と言われた時、体重は 86kg を超えており、さすがに減量のためのウォーキングを意識することになりました。

ただ体重のコントロールだけをいえば、中強度の運動であるウォーキングだけでは成果は限られるようです。クラブの指導者講習会での講師のお話しを少し紹介させていただきます。

【体重 60kg の男性の場合】

- 基礎代謝量 (じっとしていても動物である人間が必要とするエネルギー量) 1kg あたり 25KCal
 $60\text{kg} \times 25\text{KCal} = 1,500\text{KCal}$ (じっとしていてもこれだけ必要)
- デスクワーク等での 1 日の消費エネルギー量 (平均) 400KCal
従って 平均的な 1 日の消費エネルギーは $1,500 + 400 = 1,900\text{KCal}$ となります。
- 食事からの平均的な日本人の摂取エネルギー (男性) 1 日 2,200KCal
 $2,200 - 1,900 = 300\text{KCal}$ (60kg の体重を維持するために余分なエネルギー)

通常 30 歩で 1 KCal 消費しますので、 $30\text{歩} \times 300\text{KCal} = 9,000$ 歩すなわち約 1 万歩を 1 日で歩ければ、体重 60kg を維持できるということになります。しかし大人の 1 歩は約 60cm ですので、毎日 5.4km が体重維持に必要ということになります。ご飯は 1 杯約 180KCal ですから、私の場合も主食で大好きなご飯の制限という食事制限も取り入れることとなりました。

ただ、ウォーキングを続けることは確実にエネルギーの消費(ダイエット)に繋がることを発見できましたし、この頃出会ったウォーキングクラブの仲間の励ましもありがたく、この時の経験が適正な体重を維持するだけでなくリラックスできる面も含めて、ウォーキングは今生活の一部となっています。

定年退職して5年が過ぎ私も65歳になります。皆様の時代は間違いなく定年延長も含め65歳まで現役の時代となると思われます。最近つくづく思うことは、現役引退後に何か始めようとしてもなかなかむつかしい、体力も意欲も現役の時とは桁違いです。仕事はいずれ終わります。仕事だけでなく、「何か続けられるもの」と今のうちに現役のうちに出会っておくことは、今後より長くなる人生により大事になる時代ではないでしょうか。まさにワーク&バランスが大切な時代になっていると思っています。

